



vol.
155

今月のお題
.....

生物多様性と…天文学?

一見すると、生物多様性からは遠いところにある宇宙の世界。そんな天文学の視点からも「生物多様性」を考えるためのヒントがないか、いろいろ考えてみました。

高梨直紘 (東京大学) / 平松正顕 (国立天文台チリ観測所)

地球存亡を掛けて生物多様性を考える

「生物多様性って何だろう?—生物学・天文学・哲学の視点から生物多様性について考える」というトークイベントに登壇してきました。東京駅前の大丸有(大手町・丸の内・有楽町)エリアでは、来年度から生物多様性をテーマにしたさまざまな取り組みが行われるのですが、その第一歩として、そもそも生物多様性とはなにかを考えるのが今回のイベント。天プラならきつとなにか話をひねり出さだろうと、声を掛けていただきました。

副題にもあるように、生物学・天文学・哲学を組み合わせたのがこのイベントのユニークなところ。生物学の視点で基本を学び、天文学の視点で頭を柔らかくした上で、哲学の視点で議論を深めていく、というのがその狙いです。天文学は、生物多様性からはかなり遠いところにあるように見えますが、そんなところからでもいろいろ考えられますよ、というのを示す事が私たちに与えられた役割です。

生物多様性と聞いてまず思いつくのは、宇宙における環境の多様性についてでしょう。近年の研究によって、宇宙にもさまざまな環境があることがわかってきました。火星や、木星や土星の衛星などには、液体の水が存在している場所があるようです。太陽系の外を見れば、そこには多様な惑星の世界が広がっていることも明らかになっています。生命の存在が確認された場所はまだまだありませんが、十分にその可能性を感じさせます。このような環境の多様性は、生物多様性にもつながる視点のひとつでしょう。

もっと大胆な事を考えてみましょう。これだけ宇宙に惑星があるならば、当然宇宙人はいるに違いありません(論理の飛躍)。その中には、地球より遥かに進んだ文明もあることでしょう。彼らはいつか地球を見つけることでしょう。その時、地球



みんなで車座になって、天文学の視点も意識しながら生物多様性について議論しました。

の生き物を見て「生物多様性って、大事だよな」と彼らは思ってくれるのでしょうか。もし彼らがそう思うとしたら、それはどういう論理に基づくもののでしょうか。宇宙全体で通用するような生物多様性の概念を確立することは、実は地球存亡を掛けた超重要なテーマなのでは…。

こう考えてみると、どうも生物多様性と天文学はかなり相性の良いように思えてきました。一見遠そうに見えることでも、実は深いところで繋がっている。そのような事を改めて感じさせてくれた、貴重な機会となりました。またやろっと。